



あらいやわ つねお 議員

■地域医療について

Q 地域医療の現状と課題、今後の方向性及び県立東和病院、大迫地域診療センターの存続・維持について伺う。

A 医療人材が全国的に不足しており、特に岩手県は医師不足が深刻な状況にある。また、病院の経営状況も厳しく、県は県立病院の維持のため令和6年度で22.3億円を繰り出したが、決算では71億円の赤字となった。東和病院、大迫地域診療センターは地域に欠かせない重要な医療機関であるが、県立病院等が多額の赤字を抱えていることから国による支援も踏まえ、注意深く

■芸術文化振興施策について

Q 芸術文化の活動支援体制と後継者確保対策について伺う。

A 市民芸術祭実行委員会への負担金や芸術文化協会への事業活動補助金、市芸術協会加盟団体への文化会館使用料の一部減免や、催事活動等を周知するため広報はなまきや市ホームページで情報発信を行っている。後継者確保については子どもたちへの民俗芸能の普及啓発や中学校での部活動の地域展開で芸術団体への参加を促し次世代への普及啓発をしていく。

■自由通路のコスト削減について

Q 4.7億円の事業費削減によって、自由通路内のコンセプトが打ち消されたのではないかと。市民の方々にこの変更を説明するべきと思うが、どうか。

A 大幅な変更や、コンセプトを全く無視しているものではない。内装材を木質系からシート系に替えるなど変更点はあるが、全体的なデザインは、過去の検討や市民のみなさんからいただいた意見を反映してコスト削減を図っている。市民への説明は、最終的にでき上がった実施設計を皆さん示すのでご理解いただきたい。

■旧笹間第二小学校の利活用について

Q 文部科学省のホームページ掲載の他に、市内や市外の企業や事業所を訪問する際は旧笹間第二小学校の利活用を紹介するべきと考えが、どうか。

A 令和7年11月から文部科学省のホームページ「みんなの廃校プロジェクト」に旧笹間第二小学校が掲載され、活用について全国に紹介し、募集を行っている。また「花巻市企業立地ガイド」にも掲載し、市内外の企業を訪問する際や問い合わせがあった場合は、産業用地の他に旧笹間第二小学校跡地などの適地を紹介していく。



いとう せいこう 議員

■人口減少対策について

Q 一期目の市長選挙で公約に掲げた人口減少対策。これまで取り組んだ中で、大きな課題と捉えているものは何か伺う。

A 一つ目は少子高齢化に伴い、出生数が死亡者数を下回る自然減が挙げられる。二つ目は社会減で、令和元年から4年までは転入者が転出者より多い社会増であったが、令和5年以降マイナスに転じている。18歳から24歳までの若い世代の減少が顕著である。一方で、30歳から39歳の世代は増加となっている。



■地域づくりについて

Q 地域づくりを担うコミュニティ会議は、令和9年に発足。これまでの評価と将来展望について伺う。

A 地域づくり交付金を活用し、地域性や独自性を生かした様々な取り組みがなされている。一方で、運営上の課題もあり令和7年7月から8月にかけてヒアリングを行った。地域の人口減少や高齢化に伴う課題など、地域の実情に即した体制の見直し等を含めて、地域の皆様と話し合いを続けるための役割が果たせるよう支援していきたい。



あべ かずお 議員

■オーガニック給食について

Q 有機米を使用した学校給食について、実施した感想と今後の実施見込みを伺う。

A 教育委員会は市のオーガニックビレッジ宣言を受け令和7年度は合計4校に683食を提供した。実施に際して大迫・東和小学校児童を対象に花巻市有機農業推進協議会と市農林部による出前授業を行い、有意義な内容であった。この取り組みは市の食育推進計画や農業振興の一環ととらえ、令和8年度は市内全小中学校で各1回実施する計画である。



■コミュニティ会議職員の給料について

Q コミュニティ会議職員の賃金見直しに向けた考えを伺う。

A コミュニティ会議職員の給料は市が委託する指定管理料に含めて支払っている。この給料は会計年度任用職員とは立場や職務内容、勤務規律、雇用の性質などが異なることから単純に市職員と比較することは適切ではない。事務職員の給料は令和6年度以降、物価高騰や人件費高騰などの社会情勢を鑑み見直しを行っており、令和8年度以降も最低賃金の改定や社会経済情勢を見極め、必要に応じて適宜対応していく。

■5歳児健康診査について

Q 健康後の発達障がい児等へのフォロー体制として、保育園・幼稚園等現場の専門職育成への支援について伺う。

A 健康後の発達障がい児等へのフォロー体制として、保育園・幼稚園等現場の専門職育成への支援について伺う。健康診後、支援が必要と判定された子どもへのフォローを行う専門職には、児童発達支援管理責任者、公認心理師、臨床心理士等が想定されるが、専門職を各保育園等に配置するには、人材確保が難しく多額の費用を要することから困難。「子ども発達相談センター」における巡回訪問の回数を増やすなど、体制の強化を図る。

■生ごみ処理機購入に助成を

Q 熊の被害が拡大しており、生ごみは熊の誘引物である。廃棄物の減量化にもつながる屋内生ごみ処理機購入助成の考えを伺う。

A 屋内用生ごみ処理機は電動型が主流でパイオ式と乾燥機がある。乾燥処理後に肥料にできるのであれば、資源循環として一定の効果があるが、投入する生ごみの水分量が多ければより多くの電気を使うため水切りが必要となる。引き続き、水切りによる生ごみ減量化に取り組む。生ごみ処理機の効果的運用状況等見極めながら検討する。



いとう せいこう 議員

■熊対策について

Q 市民が実践できるクマ被害への対策についてイラスト主体のマニュアルが必要と思うが考えを伺う。

A 市民がツキノワグマに遭遇した時の通報先、遭遇した場合の対処方法、市が目撃の通報を受けた場合の対応を定めている「花巻市熊出没対応マニュアル」をホームページ、広報などで周知してきた。更なる周知を図るため、わかりやすく記載したチラシなど検討する。



■長期に渡って放置されている火災焼損建築物について

Q 火災焼損建築物は状態により対応が異なるようだがどのように指導し支援するか伺う。

A 長期に放置されている火災焼損建築物に対して早期に除却や修繕の実施を求め、その意思や資力が無い場合などに行政代執行などの可能性もあるが助言、指導、勧告、命令を行う。支援については固定資産税の減免や支援物資の提供などがある。